

# 中田かわら版

～中田地区の地域活動をお知らせします～

# 8 月号

発行：中田地区経営委員会

協力：中田連合自治会 泉区役所

制作：中田かわら版制作編集委員会

横浜市踊場地域ケアプラザ

■学校特設クラブから運営を地域に移行し、生まれ変わりました！

## 横浜中田ジュニアマーチングバンド始動！

中田地区マーチングバンド地域移行プロジェクト リーダー 齋藤 信幸

「中田地区マーチングバンド地域移行プロジェクト」（以降 PJ）、おそらくこの PJ 自体を知らなかった方も多いかと思います。この PJ は、中田地区経営委員会の中で生まれたもので、昨年度からそのメンバーとなった私は、「中田中・東中田小地域コーディネーター」という学校と地域を繋ぐ役職であることから、学校の特設クラブであるマーチングバンドを地域移行するにあたって、学校と地域をまとめる立場として適任と判断され、この PJ リーダーとして選ばれた次第です。

さて、ではなぜこの PJ が立ち上がったのか…それは地域としては当たり前のように中田の町を盛り上げてくれると思われていた両校マーチングバンドですが、実は数年前から特設クラブとしての活動は、東中田小は令和 4 年度、中田小は令和 5 年度で終了と決まっていたのです。

これまで両校は、長い間全国で素晴らしい成績を残してきました。そして何より子どもたちが楽しく、真剣に音楽に取り組んできました。その中田の代名詞とも言える歴史あるマーチングバンドの存続、そしていつまでも子どもたちが中田で音楽に触れて、心を豊かに育むことができるバンドを地域で育てていきたい！それがこの PJ の発足理由です。

両校マーチングバンドはそれぞれの考え方がありました。中田小は令和 5 年度いっぱい学校から保護者ら地域主体に、東中田小は令和 4 年度終了に全力を注ぐという考え方。同時に東中田小では、マーチングを続けたいという子どもたちが活動できる場を確保したいと模索し続けている状況でもありました。両校の考え方は私としてはどちらも理解出来ました。だからあえて第一回会議で聞きました。「中田小はもう一年特設クラブとして活動出来ますが、それまで中田小マーチングとして続けるという思いはありますか？」と。そこでの回答は「東中田小のマーチングを続けたい子どもたちに場を作ってあげたい！だから私たちは PJ に賛同します」でした。そこで私は令和 5 年度からの地域移行を決断しました。それから両校校長、両校マーチング保護者会代表&コーチ、そして地域代表の方々と会議を重ね、運営母体・規約を作り「横浜中田ジュニアマーチングバンド」を発足。中田小・東中田小 46 名の元気な子どもたちが集まり、4 月から始動しました。

両校でそれぞれの伝統や色があり、子どもたちは最初戸惑う部分もありましたが、それぞれの良いところをお互い持ち寄って考え融合し、もっともっと羽ばたける可能性を模索し成長しております。今年度のスローガンは「心をひとつに Don't give up!」最高のスローガンだと思います！目標に向けて、皆一丸となってガンバってほしいと思います。

ここまでは経緯として中田小・東中田小の話をしてきましたが、「横浜中田ジュニアマーチングバンド」は中田地区全域のバンドを目指しております。第 1 段階は立ち上げ調整のため、マーチング経験のある中田小・東中田小の子どもたちを対象としましたが、第 2 段階で中田地区全域を目指します。中田地域のバンドとしてイベントにも積極的に参加し、末永く皆様に愛されるバンドを目指して頑張っていきたいと思っておりますので、どうぞ応援とご支援をよろしくお願い致します。



ロゴもスタイリッシュになりました！



## ■ 中田地区社会福祉協議会

### 心に残る木工作品の数々

# 森口重瑠さんに感謝状贈呈

5月7日、中田地区社会福祉協議会総会が開かれ、森口重瑠（しげ）さんに栗野清嗣会長から感謝状が贈られた。森口さんは最近、体調不良を理由に退会を申し出ていた。「あなたは多年にわたり中田社協の福祉の活動に深い理解を示し率先して地域活動の向上と発展に多大な尽力をいたしました」。栗野会長から感謝状が手渡されると会場の委員たちから大きな拍手が。背後には「森口さんのありがとう」と書かれた横断幕が掲げられていた。続いて奥津八重子さんから大きな花束の贈呈があると、また一段と大きな拍手がわいた。

森口さんと言えばウサギや自動車、汽車、トラックなど幼児が喜ぶ木工細工や玩具類の製作。その数 1500 個以上にのぼる。一つ一つが入念に作られ、ぬくもりがある。そのほとんどが無償でプレゼントされる。公園での野外遊びでは竹馬や幼児がすっぽり入れる



る手押し車を何台も製作。子供やお母さんたちから大人気だ。

あさがお・ほおずき市や中田の文化祭、さくらまつりでの看板、値段の立て札などすぐに作ってくれる。「子育てサロン」では幼児と一緒に遊んだり、クリスマスではサンタクロース姿がよく似合い、好評だった。どうしたらみんなに喜んでもらえるか、それをいつも考えていた。思いやり、気配り、実行力、器用さなど、中田社協には貴重な存在だった。 (宮田貞夫)



訂正：中田かわら版7月号にて郡司さんのお名前を「和明」と表記しておりましたが「和昭」の誤りでした。

訂正しお詫び申し上げます。

#### 編集後記

御霊神社源流の村岡川は宇田川へ、更に境川へ合流して海へ。境川遊水地公園への途中には翡翠の撮影場があり撮影者は多い。鮭の遡上があったと宣伝される看板は今はないが、小中学生が魚を採り釣糸を垂れる。プール状の流れでは水遊びをする。夕暮には川鵜が電線に並んで川を覗く。2013年10月には兵庫からコウノトリが飛来した・・・。  
コロナ5類の定着を願って社会が元気になっていく夏を待つ。 山木重樹

◎発行：中田地区経営委員会「かわら版」制作編集委員会

委員長 宮田貞夫 編集長 松本正

編集委員；山木重樹、小島敏子、田中進、河内満明、松本純子、鈴木賀津彦、嶋 宏之